

「和解の務め」音信

(19-1)

Mar. 2019

金煥・朴貞玉

「神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)



韓国人教会の男性宣教会会員たちと共に

初めに、去年10月末頃日本に戻った家内が3カ月の滞在を終えて1月26日、無事に復帰しました。皆様のお祈りに深く感謝いたします。家内が帰って来るや否や早速奉仕が始まり、翌日、ある韓国人教会の男性宣教会献身礼拝に招かれ、メッセージを語りせて頂きました。そしてその翌日月曜日には毎月1回行っているライフスタイル・クリスチャン・アカデミでまたメッセージを語りました。家内も急に忙しくなり、戸惑いを覚えたでしょうけれど、これが奉仕者たちの生き方であることを再確認したと思います。

1. 妻の復帰

二〇一九年も二月末になりました。皆様の上に三位一体の神の御恵みが豊かに臨まれることをお祈りいたします。今年初めの音信をお送りいたします。

2. 飯田総主事の訪問

二番目に、2月15日から21まで日本同盟基督教団国外宣教総主事の飯田仰先生が尋ねられました。15日、ケープタウン空港にご到着、16日、フロテンブルク (Moltenburg) 村の子ども集会でのご奉仕、17日、ステレンボッシュ・改革派教会の聖餐礼拝と愛餐会へのご出席、そして教団の国外宣教のご紹介、その午後はドラケンシユタイ (Drakenstein) 村のニューホーバー・チャペルでのご奉仕、18日、ブスター (Worcester) のライフスタイル・クリスチャン・アカデミでのご奨励、そして午後はアドベント2000トラスト (Advent 2000 Trust) という文書伝道団体を見学しました。19日、ポチエフストロムに移動して、ある韓国人の信徒宣教師、徐さんの家でホームステイをしました。徐さんは建築会社を経営していますが、信徒宣教師として献身し、テントメイキングをしながら宣教に色々と携えています。20日、ポチエフストロム・ニュービギニング・センターと神学校及び大学の見学、午後はニュービギニング・センターと関わっている委員たちと会い、意見交換の時を持ちました。そして貧困層の人々が集まっているイカヘン (Ikageng) という町を訪問し、アメリカ人宣教師が経営している孤児院や小学校などを見学しました。その後は、ある農場を見て来ました。21日、徐さんの家から朝早く空港に出発し、飯田先生は東京へ、私たちはケープタウンへと別れ旅に出ました。1週間、きつい、しかも有意義の時を過ごしたと思います。

3. 今年の、二つの課題

三番目に、今年は大きな課題が3つあります。4月にアメリカ・ワシントン州のバンクーバーの、ある韓国人の教会に行つて特別集会を導くことです。次は、ビザ延長とパウロ宣教会の全体修養会への参加のために一時帰国すること、そしてポチエフストロム・ニュービギニング・センターの活性化に本格的に取り掛かることです。そこに国民高等学校の設置ができれば、何よりもということですが。今年にはステレンボッシュの和解の宣教集会も続けて奉仕させて頂く所存です。皆様の執成しのお祈りを心よりお願い致します。

4. 祈りの課題

四番目に、祈りの課題は以下の通りです。

- ① 4月12日から14日までのバンクーバー韓国人長老教会での特別集会に主の御恵みが豊かに注がれるように。
- ② ビザ延長が順調に許可され、南アフリカにおける和解の務めが継続できるように。
- ③ 19日(が祝福されるように)。
- ④ 青少年及び青年たちの精神的な覚醒と聖書的世界観・価値観の確立を助ける国民高等学校が着実に準備され、スタートできるように。

終わりに、皆様のご健康、ご平安を心よりお祈り致します。南アフリカの、主の小さいしもべたち、金煥・朴貞玉より



ポチエフストロム・ニュービギニング・センターの建物一部



フロテンブルク村の子供たちと飯田先生

